

彙 報

会 長 梅 田 博 之

平成8年度第2回常任委員会

日 時：平成8年9月10日（火）午後1時～5時

場 所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所小会議室

出席者：梅田博之（会長），坂本比奈子（事務局長），角田太作，長野泰彦，吉田和彦

オブザーバー：大野仁美（事務局長補佐）

議事と報告.

- (1) 第113回大会（平成8年度秋季大会）について，研究発表者などの大会の詳細を決めた（応募件数65件，採用45件）．大会運営委員長は池上二良氏である．
- (2) 第114回大会（平成9年度春季大会）は学習院大学で行なわれる．
- (3) 来年度科学研究費補助金審査委員候補者の推薦について選挙の結果が報告された．
- (4) 第2回国際応用言語学世界大会（1999年8月2～6日開催）の協賛団体として学会名を大会プログラム等に掲載することを了承した．
- (5) 危機に瀕した言語の小委員会を第113回大会前日に開催する旨，報告があった．
- (6) 名簿の形式について検討した．

平成8年度第2回委員会

日 時：平成8年10月26日（土）午前10時～午後12時30分

場 所：北海道大学学術交流会館

出席者：梅田博之（会長），坂本比奈子（事務局長），池上二良，荻野綱男，熊

本 裕, 坂本 勉, 佐藤昭裕, 庄垣内正弘, 田中克彦, 田村すす子,
角田太作, 徳川宗賢, 早田輝洋, 松村一登, 宮岡伯人 (編集委員長),
村崎恭子, 藪 司郎, 湯川恭敏, 吉田和彦

委任状 : 42名

オブザーバー : 柴谷方良 (会計監査), 副島昭夫 (事務局長補佐)

議 事

議事に先立って, 大会開催校の池上二良氏, 佐藤知己氏より挨拶があった。

- (1) 会長より平成8年度第2回常任委員会について報告があった。
- (2) 第113回大会について, 発表応募件数その他について報告があった。
- (3) 第114回大会について, 平成9年6月14日・15日両日学習院大学にて行われる旨報告があり, 大会運営委員長の徳川宗賢氏より挨拶があった。
- (4) 来年度科学研究費補助金審査委員候補者の推薦について, 選挙結果が報告された。
- (5) 次期役員選挙は, 名簿作成のための会員の個人情報アンケートが今秋季大会の案内に同封された点を除いて, 従来通りの方式で行うことが報告された。
- (6) 名簿について, 不掲載を希望する会員についても, 姓名のみは記載すること, 版型については事務局が中西印刷と検討の上決定することとなった。
- (7) その他
 - 〈ア〉 前日行われた危機に瀕した言語の小委員会について報告があり, 『言語研究』の中に, 危機に瀕した言語に関するページを設けることが了承された。
 - 〈イ〉 第2回国際応用言語学世界大会の協賛団体として, 本学会名を大会プログラム等に掲載することを了承した。
 - 〈ウ〉 文部省科学研究費補助金研究成果公開促進費 (『言語研究』刊行補助) の決定通知があった旨, 報告があった。金額は60万円である。
 - 〈エ〉 日本学術会議より, 研究連絡委員の割当数を一名とする予定であるので, 語学文学, 東洋学のいずれの研究連絡委員会から出すか希望順位

について照会があり、語学文学研連を第1順位とする旨回答したとの報告があった。

〈オ〉 研究発表不採択理由の開示について、開示しないということでは了承された。また、発表者数をどうすべきか、また、今後の大会の運営方法をどうするかに関して、種々討議がなされたが、今後さらに検討することとした。

〈カ〉 予稿集について、継続することが了承され、作成方法・体裁その他については、次期執行部に一任することとなった。

〈キ〉 前回大会における研究発表の代読について事情説明があり、討議の結果、その旨付記した上で『言語研究』に発表要旨を掲載することとなった。また、今後の対応については今後さらに検討することとした。

・前号（『言語研究』110号）彙報の決算・予算に関する〔別表1〕・〔別表2〕を以下に掲載致します。

〔別表1〕 平成7年度 日本言語学会決算

自 平成7年4月 至 平成8年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	12,755,500	1 刊 行 費	5,000,547
C 雑 誌 売 上	1,635,550	2 発 送 費	337,780
D 文 部 省 補 助 金	600,000	3 編 集 費	300,885
E 預 金 金 利	11,144	4 事 務 委 託 費	3,502,000
F 雑 収 入	601,506	5 大 会 関 係 費	1,537,207
* 繰 越 清 算 △	301,722	6 委 員 会 費	189,116
		7 常 任 委 員 会 費	191,114
		8 C I P L 負 担 金	100,000
		9 選 挙 関 係 費	1,000,000
		10 名 簿 作 成 費	1,000,000
		11 通 信 費	294,872
		12 事 務 局 費	319,747
		13 消 耗 品 費	346,728
		14 予 備 費	0
		15 雑 費	34,485
収 入 合 計	15,301,978	支 出 合 計	14,154,481
A 前 期 繰 越	3,665,999	次 期 繰 越	4,813,496
計	18,967,977	計	18,967,977

*繰越清算は、算定方法の違いで前年度決算時の繰越金と今年度予算作成時の繰越金とに生じた差額を修正するもの（数字上の修正であって、実際の繰越金から損失は生じない）

◇収入内訳(単位 円)

B 会費

国内個人会員会費	11,349,000	前受国内個人会員会費	194,222
国内団体会員会費	931,000	前受国内団体会員会費	7,000
国内維持会員会費	80,000	前受在外個人会員会費	51,500
国内賛助会員会費	30,000	—	—
在外個人会員会費	348,500	—	—
在外団体会員会費	17,000	—	—
合 計	12,755,500	合 計	252,722

*次期会費に含まれるものである

F 雑収入

106号抜刷増刷代	4,635
107号抜刷増刷代	27,843
108号抜刷増刷代	8,528
110回大会出店料	40,000
111回大会出店料	30,000
111回大会予稿集売上	455,500
111回大会予稿集超過頁代	35,000
合 計	601,506

*学会会員名簿代は雑誌売上に含む

◇支出内訳（単位 円）

1. 刊行費

	108号 (216p.)	109号 (220p.)	計 (436p.)
印刷費（校正料含む）	2,473,648	2,526,899	5,000,547

*割付・校正料は印刷費に含む

2. 発送費

「言語研究」刊行時の一斉発送料（追加発送料は含まない）

3. 編集費

編集通信費	28,871
編集会議費	55,850
編集旅費	96,500
編集アルバイト費	119,664

計	300,885
---	---------

4. 事務委託費

中西印刷株式会社と交わした事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

*コピー代、電話料金等は事務委託費に含む

5. 大会関係費

	第110回	第111回	計
プログラム版下作成費	77,250	77,250	154,500
プログラム印刷代	39,140	37,595	76,735
出欠葉書印刷費	29,355	28,325	57,680
プログラム発送費	181,770	165,440	347,210
大会費	279,982	240,000	519,982
予稿集印刷費	—	381,100	381,100

計	607,497	929,710	1,537,207
---	---------	---------	-----------

13. 消耗品費

文具費	8,476
事務用封筒	123,600
発送用封筒	77,250
入会申込書, 振替用紙印刷費, プログラム開発料等	137,402

計	346,728
---	---------

15. 雑費 慶弔費, 手土産代, 贈呈用予稿集代金

〔別表2〕 平成8年度 日本言語学会予算

自 平成8年4月 至 平成9年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費	12,000,000	刊行費	6,700,000
雑誌売上	1,000,000	発送費	400,000
文部省補助金	600,000	編集費	600,000
預金金利	10,000	事務委託費	3,600,000
大会関係収入	900,000	大会関係費	2,000,000
雑収入	50,000	委員会費	200,000
積立からの繰入金	2,000,000	常任委員会費	300,000
		C I P L負担金	100,000
		選挙関係費	1,000,000
		名簿作成費	2,000,000
		通信費	350,000
		事務局費	400,000
		消耗品費	400,000
		予備費	1,000,000
収入合計	16,560,000	雑費	123,496
前期繰越	4,813,496	積立金	2,200,000
計	21,373,496	計	21,373,496

第113回大会

期 日 1996年10月26日(土)～27日(日)

会 場 北海道大学学術交流会館

第1日(10月26日)

講演会 午後1時30分～5時30分

開会の辞

開催校挨拶

公開講演 テーマ 北方の言語：類型上の諸問題

「環太平洋諸言語における名詞抱合」

大島 稔

「北方諸言語における人称の反転」

遠藤 史

「東北アジア言語における母音調和」

池上 二良

会員懇親会 午後6時～8時

第2日(10月27日)

研究発表 午前9時30分～12時20分

○A 会場

司会 荻野 綱男

(A 1) 9:30～ 日本語の「する」構文について

横田 賢司

(A 2) 10:00～ 日本語の指示表現のタイプと推意

秋月 高太郎

司会 徳川 宗賢

(A 3) 10:50～ 日本語の心理動詞と共起する「に」名詞句
と「を」名詞句の特徴

板東 美智子

(A 4) 11:20～ 日本語のガ格とヲ格の非階層的付与につい
て

佐藤 直人

(A 5) 11:50～ 失文法患者の主格を表す「が」の産出状況
に關係する意味的要因について

藤田 郁代

井原 浩子

○B 会場

司会 松村 一登

(B 1) 9:30～ 非両立語・多項対立の反意關係

足立 公平

(B 2) 10:00～ 擬態語の意味のメカニズムについて

小田 弘美

司会 湯川 恭敏

- (B 3) 10:50~ 英語の名詞転換動詞の比喩的意味拡張 谷 脇 康 子
- (B 4) 11:20~ Dative Alternation and the Semantics of
the 'give' Construction 児 玉 一 宏
- (B 5) 11:50~ 隠喩にみる言語の思考的機能 —ウォーフ
の言語相対論の理論的展開— 太田 智加子

◦C 会 場

司会 吉田 和彦

- (C 1) 9:30~ アイヌ語タライカ方言と北海道方言の間に
見られる /r/ と /l/ の対応とその
例外について 高 橋 靖 以
- (C 2) 10:00~ 述語の構造
—日本語・韓国語・アイヌ語— 村 崎 恭 子

司会 角田 太作

- (C 3) 10:50~ 中国語と英語の言語表現のイメージ
スキーマによる解釈について 山 崎 雅 人
- (C 4) 11:20~ 中国語の結果合成動詞の構造について 沈 力

◦D 会 場

司会 早田 輝洋

- (D 1) 9:30~ 満州語文語の接尾辞 -ngge の用法について 木 村 滋 雄
- (D 2) 10:00~ 現代モンゴル語の過去の事実を指し得る
動詞語尾について 水 野 正 規

司会 庄垣内正弘

- (D 3) 10:50~ チュクチ語の名詞抱合について 特 古 斯
- (D 4) 11:20~ コモックス語のアブリカティブの
接尾辞について 渡 辺 己
- (D 5) 11:50~ ハイダ語スキドゲイト方言の代名詞に
ついて 堀 博 文

◦E 会場

司会 熊本 裕

(E 1) 9:30~ 古典アラビア語文法における
jins (種) の概念 榮谷 温子

(E 2) 10:00~ 現代アラビア語のテキスト分析に基づく
qad+“完了形”の機能について 近藤 智子

司会 藪 司郎

(E 3) 10:50~ アッカド語のいわゆる来辞法について 森 若葉

(E 4) 11:20~ 古典シリア語における動詞の完了形と
存在動詞 hwa との複合形式について 榎崎 勝則

(E 5) 11:50~ 現代ロシア語副動詞 (converb) の
談話的働き 北上 光志

研究発表 午後1時30分~4時

◦A 会場

司会 荻野 綱男

(A 6) 1:30~ 「ため」の多義性の一側面：〈目的〉と
〈原因〉の融合 金森 千恵

(A 7) 2:00~ 存在動詞「ある」と「いる」
—PROCESS/RESULT をめぐって— 高橋 純

司会 早田 輝洋

(A 8) 2:50~ 「再帰中間構文」再考 今泉 志奈子

(A 9) 3:20~ 再帰形の logophoric な機能について 杉浦 滋子

◦B 会場

司会 坂本 勉

(B 6) 1:30~ モダリティと条件文および理由文の交替
について 吉良 文孝

(B 7) 2:00~ 派生の経済性と wh 島効果における主語
と目的語の非対称性 西前 明

司会 角田 太作

- (B 8) 2:50~ Carlson の存在論と tough 構文の解釈
 について 三木 望
- (B 9) 3:20~ 照合理論と縮約現象 鎌田 浩二

◦C 会場

司会 村崎 恭子

- (C 5) 1:30~ 中国語陽谷方言の r 化について 東ヶ崎 祐一
- (C 6) 2:00~ 朝鮮語 [ATR] 母音調和と最適性理論 平野 日出征
- 司会 村崎 恭子
- (C 7) 2:50~ The Structure of mora nasal 那須川 訓也
- (C 8) 3:20~ 英単語の視覚認知における音韻処理 門田 修平

◦D 会場

司会 田村すず子

- (D 6) 1:30~ ブヌン語 (南部地方) における場所の表現 野島 本泰
- (D 7) 2:00~ インドネシア語の -nya と itu の前方指示
 機能の比較 内海 敦子

司会 庄垣内正弘

- (D 8) 2:50~ インドネシア語の従属節中の di- 形動詞の
 主語の省略に関する談話・機能論的要因 安田 和彦
- (D 9) 3:20~ Object Preposing 中村 政徳

◦E 会場

司会 藪 司郎

- (E 6) 1:30~ ハワイ語の he の統語的性質 塩谷 亨
- (E 7) 2:00~ ムニャ語の音韻的諸特徴について 池田 巧
- 司会 吉田 和彦
- (E 8) 2:50~ マリ語の連体修飾構造について 松村 一登
- (E 9) 3:20~ ヘレロ語動詞のアクセント 湯川 恭敏

◇ 誤記の訂正

言語研究第110号に以下の誤記がありましたので、お詫びして訂正いたします(敬称略)。

	誤	正
237頁 2行	吉田史子	吉川史子

◇ 本誌は、文部省平成八年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を得て刊行されたものである。